

らい 来ぶらり 44

離れても願いは同じ

就職部長（前図書館次長） 佐野 眞

図書館を離れて、なによりも困っているのは、いつでも身近にあると思っていたレファレンス・ブック類がなくなってしまったことです。ちょっとした疑問が、すぐに解決できなくなったからです。時間を置いてしまうともうどうでもよくなってしまふような、小さな疑問を大切にしてきましたが、もうそんな生活の信条は捨てなければなりません。

普通なら、転職するときには迷いとか決断があるのだと思いますが、私の身に起こったことは、朝おきたら転職していたというような、まるであのザムザのような驚きでした。だから中身の変身には少々時間がかかります。

内側には図書館が見えなくなるなどというのは、極めて怠慢な図書館員の言うことです。私は司書であると同時に、最もうるさい利用者の眼を持つようとしてきました。仕事上の目標とは別に、自分から発した探求テーマを持って、よその図書館はもちろん、勤務先の図書館も自分の必要から利用してきました。そうすることが、自分の司書としての基盤をたかめることなのだと思っていました。

30数年、書誌学とその周辺、いわば図書館学の勉強を続けていますが、その勉強を続けることが私の職業そのものだと思って、疑ってもみませんでした。このたびの転職で、これが「余暇の過ごし方」ということになってしまったわけです。

図書館を離れて、責任がなくなったのですから、どんな要求をしてもよいわけですが、

まだ、それがどういう事情で可能か不可能なのかがわかりますので、遠慮がなくなるには、もう少し時間がかかりましょう。

ただ、大学図書館というのは、公共図書館とは違って、学内にむかって啓蒙するところではありません。大学の教育と研究の支援がその目的なのですから、公共図書館のように独自の目標を立てて旗をふってみてもそれは見当違いです。大学図書館を動かすのは、教員・学生・職員の期待の集合のはずですから、それがどんなに難しくとも、この中から最もよい「解」を求めてゆかなければなりません。

学習院大学の図書館システムは、最も費用のかかることを前提として成り立つ分散方式を大学が採用しているのです。どうしても動きがにぶく、また他大学との協力関係を維持する上でもハンデがあって神経を使います。しかし、どんな状況にあっても、図書館を支えているのは「利用者」という漠然とした概念ではなく、学生・教員・職員一人ひとりの顔を持った個々の利用者であることを、いつも基本に置いていて欲しいと思います。



お隣の国のお正月

チユンチエ
春節 — 中国のお正月

冬の寒さがだんだん近づいてくると、やはり故郷で過ごした数々のお正月を思い出してしまう。今から皆さんに私の故郷 — 中国の賑やかなお正月（春節）の面白さを味わっていただく。

中国のお正月と言えば、やはり大晦日の夜である。時計の針が12時を指した瞬間、まるで街が戦場にでもなったように凄まじい爆竹の音と人々の歓声が広い星空へこだましていく。さらに花火が1本、また1本と打ち上げられ、新年の夜空を花の海のように飾っていく。その時、人々の歓喜は頂点に達する。

家の中ではこんな風景が見られる。皆で作った餃子を新年になってまっ先に味わうのも最高の幸せ。餃子にはわざと餡を入れたものがあり、もし誰かがそれを食べると、この1年間はきっと幸運に恵まれると信じられて



いる。食事の後、子供たちは1人1人、祖父母そして両親に丁寧^{あいさつ}に挨拶し、祝福の言葉をのべる。そして、お年玉を頂く。ところで、大晦日の夜には絶対家の灯火^{あかり}を消してはいけないと言われていた。それは光を消したら悪い鬼神が家に入ってしまうからだそうだ。

元日から5日ごろまで人々は親戚や会社の人や友人を訪問する。15日は「元宵節」で、この日が過ぎると、人々は新たな気持ちを持って再び忙しい毎日にもどっていく。

中国のお正月はまさに賑やかな、そして「一家団欒^{らん}」のお正月と言っていいでしょう。
(日文学科2年 徐楠^{ジヨナン})

ソルナル — 韓国のお正月

韓国のお正月はほかの伝統的な祝祭日と同じように陰暦で祝われる。ちなみに1994年のお正月は2月10日である。

2月に入ると国中が活気にあふれる。主婦たちは買い物に忙しくなり、子供たちもうきうきする。お正月の2～3日前から大晦日の夜遅くまで親戚中の女の人が集まり、お餅や「饅頭^{マンドウ}」（丸い花形の韓国風ギョーザ）の具など正月料理の下ごしらえをする。特に元日の朝に行く「チェサ」と言う先祖にごちそうを供える儀式のための料理は、伝統的に決めら



れたとおりの材料と作り方でひとつひとつ心を込めて作られる。子供たちは台所の、普段とは違うごちそうの数々を覗きながら、楽しみに胸をふくらませる。

元日の朝早くから料理が並べられる。特別なテーブルの上に特別の器いっぱい盛られた料理が作法どおりに置かれていく。「チェサ」は一家長を中心に韓服で着飾った親戚が集まり、そのテーブルの前で先祖に新年の初めの挨拶を申し述べる大切な儀式なのである。その後、祖父母や両親などに丁寧に挨拶をした後、お互いに「福にあふれる1年になりますように」と挨拶を交わす。韓服を着慣れない幼い子供が今にも転びそうにおじぎをする姿は本当にかわいらしい。そしてテーブルを囲み楽しい食事が始まる。

家の外に目を向けると、雪で白い冬の街は鮮やかな韓服で彩られ賑やかなお祭り騒ぎが繰り広げられるのである。

(日文学科3年 皇甫京玉^{ファンボキヨノク})

法経図書センター

— 新館案内 —

「法経図書センター」と名前も新しく、9月末にオープンしてから数か月がたちました。旧図書室に比べて3.5倍の広さになり、座席数も約370席確保できたおかげで、毎日650人前後の利用者がいます。メインフロアの5階は「木」のイメージを表現し、吹き抜けのエントランスホールの階段を上った6～7階の開架・閲覧フロアは「スチール」によるモノトーンの色調でまとめています。特に力をいれた開架図書室には、新しく図書を購入しました。貸出もコンピュータ化され、学生証だけで「ピッ!ピッ!」はい手続き終わりです…と簡単になりました。さらに3～4階の書庫には約30万冊の図書が待機していますので、こちらも忘れないで利用してください。書庫の貸出は目録カードを検索してカウンターに請求する従来の方法です。

スペースが広がったことでたくさんの端末が導入され、図書目録検索を中心に、外部

データベース、CD-ROM等をキーワードで検索でき、より早く利用者のニーズにこたえられるようになりました。AVブースも設けられてこれからもっとソフトを充実していく計画です。マイクロ資料の利用には最新式のリーダープリンターを備えて、高度な画像とプリントができます。利用の際はカウンターに申し込んでください。7階には「図書演習室」が設けられ、ここでは図書センターの資料を使って授業が行われています。また、よく晴れた朝は、7階の窓からピラミッド校舎の向こうに丹沢あたりの山々と富士山を眺める楽しみもプラスされました。

(法経図書センター 千村英子)



書物の風景

38

ずっと以前、窓際に仕事机があつたある春の事、室内に舞い込んでくる桜の花びらを本に挿み、押し花にした経験があります。これは私のささやかな思い出ですが、桜吹雪にも遥か遠い日の伝説が秘められていることでしょう。その花に関する著書を2～3ご紹介いたします。

『植物と神話—花と木とロマンの詩—』(近藤米吉編著、雪華社、1973年刊)には、始めに花の写真の下に和名、学名と名の由来や原産地などの説明があり、そのあとに花に纏わる神話(伝説・民話)が載っています。ギリシャ神話とローマ神話を中心に、次いで北欧伝説、1～2ですが他の大陸からの神話・伝説もあって、わずかながら民族の特徴もうかがわれます。これらの神

花の伝説

話や伝説を持っているそれぞれの民族に関する知識や、花との民俗的なかわりを研究すると神話への関心も一層深まるでしょう。

『花の歴史』(リュシアン・ギョー、ピエール・ジバシエ共著、クセジュ文庫、1973年刊)は世界各地の原産地から文明の地へ伝播した花自身の歴史と花を素材とした古代から近代までの文学や芸術についての紹介です。神話や伝説を語る上で直接に参考になる本ではありませんが、花について心静かに考えさせられる好著だと思います。

『植物と民俗』(宇都宮貞子著、民俗民芸双書、岩崎美術社、1982年刊)は、日本国内の調査による研究書ですが、伝説研究の必読書と思われる。

(和書係 橋奥雅子)

参考室あれこれ

今年も卒業論文、ゼミ論文、修士論文などの締め切りが気になるころ、浮かない顔の利用者が図書館を訪れました。論文に引用した部分の原本の確認という段階で、研究室があると安心してた洋書が、いざ利用しようとしたら見当たらないとのこと。それが1冊であれば近隣の大学図書館に問い合わせをして閲覧しに行けばよいが、4冊、5冊となると数か所の大学を駆け回らなくてはならず、利用者の落胆が伝わってきました。

和漢書でも、日文の研究室にないのでがと不信な顔で『平家物語』の宝永7年・延宝5年の版本を探していた利用者。こち

らは大学図書館の書庫にありました。しかし、元和3年・寛永3年・天和2年・元禄4年・享保12年の版本は学習院大学にはなく、『国書総目録』により他大学の手をかりました。『国書総目録』は江戸末期までに日本人によって編まれた和漢書約50万冊を網羅している目録で所蔵先もわかります。但し、これで学習院所蔵となっても油断はできません。〔『山本帯刀軍法物語』1冊 写本 慶長14年 学習院〕などは残念ながら所蔵が確認できません。このような例は他大学でも多々あるようです。そんな中で、清の張潮著『虞初新志』や『外国商法沿革志』（長崎叢書）を図書館の旧分類の蔵書中にみいだした時はほっとしました。（参考係 甲斐静子）

「すーと」?

「数学科図書室」というとどのような所を想像されますか? 学生間では「すーと」という愛称で呼ばれています。日々の出来事的一端をご紹介しますと——自主ゼミのため外国語テキストを探す意欲満々の1年生。ボランティアの方に専門書を点訳してもらうため長期借出しをする視覚障害の大学院生。仕事のため文献複写に訪れるOB。「結婚します」といって教科書を寄贈して下さるOG。「この問題の解答が載っている本を見せて下さい」というのは序の口で、「演習問題を解いて!」と文学部出身の私たちに参考業務?を迫る学生。一方では「自動販売機のお湯がでませーん」とカップ麺片手に飛び込む4年生、等々。取り扱っている書物は $x^n + y^n = z^n$ 、 $\varepsilon - \delta$ 云々とハードな内容ですが、キャンパスの最南端にあるアットホームな図書室です。皆様のご利用をお待ちしています。（数学科図書室 片桐智子）



お知らせ

○返却期限、忘れていませんか?

冬休みの長期貸出図書の返却日は1月12日(水)から21日(金)までの間です(借りた日によって異なります)。返却が遅れないよう、利用証の日付を確認しておいてください。

○試験シーズン到来!

1月18日(火)から学年末試験が始まります。図書館が1年中で最も混みあう季節で

す。必要な資料は早目に確保し、期限がきたら次の人にゆずりましょう。また、閲覧室で大きな声で話すのは慎んでください。

○学年末の開館および閉館について

開館日: 1月8日(土) — 2月10日(木)

2月23日(水) — 3月31日(木)

閉館日: 2月12日(土) — 2月22日(火)

(蔵書点検および入試関係業務のため)

来ぶらり No.44 1994年1月1日発行

発行責任者: 片瀬 潔 編集委員: 小林邦子 田村節子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3986)0221